

皆既日食と北欧の旅に参加して

中村 真澄

1990年7月22日の皆既日食を観測するために、私は、JTB主催、協栄産業企画のツアーに参加した。今回、JTBでは、4種類のコースを計画したが、実際には、1つになり、同行した人の中で、途中から、別コースのバルト海クルーズへ行ったご夫婦が1組あった。また、途中参加の方等、多少の変動があったが、添乗員を含め、20数名のツアーであった。

このツアーは、企画としては、欲張りな内容といえる。その分、移動が多く、のべ10回、飛行機を乗り換えなければならなかった。

主な行程は、19日夜、大阪発ー20日朝、ロンドン着、発→ヘルシンキ着、発→ヨーヘンズ着、21日、日食観測地下見、22日朝、日食観測、昼、ヨーヘンズ発、ヘルシンキ着、発→オスロ着、発→夕刻ベルゲン着、23日、ベルゲン発→フィヨルド見学→24日朝、レルダール発→オスロ着、25日昼、オスロ発→ストックホルム着、26日朝、ストックホルム発→ロンドン着、発→27日昼、東京着。ご覧の通り、かなりきつい。加えて季節的に昼間が長いので、午後11時近くになってやっと暗くなる。時間の感覚がなくなり、時差ボケが加算されて、同行の人達も旅行の終わりごろに体調が整ってきたと話していた。私も同感であった。

私が、このツアーに参加した理由は、2つある。1つは、出発日が一番遅かったこと。もう1つは、日食観測だけでなく、フィヨルド見学があったことだ。今回の皆既日食は、日の出直後で太陽高度が低く、気象条件が悪いのであまり期待感がなかった。それならば、以前からぜひ、見たかったフィヨルドを見逃すことはないと考えた。

フィンランドのヨーヘンズは、皆既日食のための様々なイベントが催されていた。残念ながら参加しなかったが、イベント案内のパンフレットがホテルに用意されていた。また、デパートでは、日食観測のための地図や道具を売っていたり、皆既日食がデザインされたビニル製の手提袋に買った物を入れてくれた。インフォメーションセンターでは、旅行者のために数カ所の観測地を教えてくれた。その候補地を日食の前日に、バスで回り、ツアーの全員で相談して観測地を決めた。結局、2～3カ所を移動して、希望者をその場に降ろすということになった。

観測当日、私は、パブクックのゴルフ場で観測した。東が広く開け、奥行きが長いので、多勢の人が着てもトラブルを起こさないうらうと思ったし、蚊も少ないと思ったからである。予想したよりも観測に来た人数は少なかつた。天候は、絶望的で、雨も降っていたが、食分が50%ぐらいのところに雲が切れ、おもしろい写真がとれた。また、皆既中、太陽が見えないので、まわりの様子をビデオに撮れ、さらにその暗さが現地の人が「今頃の真夜中より暗い」と言ったほど暗くなったことが印象的だった。私にとっては2度目の皆既日食観測旅行で、前回のシベリアで見られた皆既食が今回見られなかったことは残念であったが、後半の旅が楽しめたのは幸いであった。